

論文審査の要旨

| 報告番号 | 第 | 号 | 氏名 | 福地本 晴美 |
|--|---|----|--------|--------|
| 論文審査担当者 | | 主査 | 小長谷 百絵 | |
| | | 副査 | 小口 江美子 | |
| | | 副査 | 鈴木 久義 | |
| (論文審査の要旨) | | | | |
| <p>本研究は、抗悪性腫瘍薬治療を選択するための意思決定過程で、看護師が情報提供や精神的支援などを行うことによって治療選択への不安や迷いが減少したことを明らかにしたものである。</p> <p>近年、悪性腫瘍の治療において入院期間が短縮され、外来検査、外来治療が一般的となった。このような状況において、治療抗悪性腫瘍薬治療患者への良質ながんチーム医療を形成するために、外来看護師の役割は重要であり、さらに、患者ががんと向き合いながら療養し、安心して治療を継続できるための支援として、外来における看護面談が必要であることを本論文は述べている。本研究のすぐれているところは、がん患者さんの心理的な側面を文献検討によって多角的に述べ、それらに対しての実践的な看護師の行う面談の質を理論的に評価した点にある。</p> <p>審査の過程では看護ケアを測定する患者アンケートの洗練が不十分であること「不安」の評価基準が漠然としていること、使用している一部の用語の説明が不十分であることなどが指摘されたが、今後の課題や研究の限界等にも触れながら十分な応答が得られ、内容は看護にとって意義のある研究であると考え、本論文を博士論文として承認することとした。</p> | | | | |